



富士地区
喫煙対策推進
誌上フォーラム

横川清一

本誌記者

連載5〇霊峰富士に寄り添う未来志向の喫煙対策を！

習慣的喫煙の影響や害を知る市民の意識を変える方策はあります

肺ガン死亡者が増えても
富士市の喫煙率は高い

富士市には2度ほど訪問したことがあります。いずれも仕事ですが、関西方面にはたびたび訪れることがあって、その途中、新幹線の車窓から眺める富士山の雄姿は、決まって富士市辺りです。

私は生来、たばこを口にしたことがありません。喫煙者の心情、喫煙習慣についても、よく解かっていません。しかし、半世紀にわたって医師と医療関係者、教育関係者が「禁煙」を呼び掛けてきたことは、情報関係

の仕事柄、よく見聞きしてきたことです。

かつて禁煙を呼び掛ける市民団体に誘われ、市中に立ってビラ配りをしたことがあります。その頃の喫煙者数は、全国で4500万人とも言われました。「習慣的に喫煙する人は、肺ガンで死亡する割合が高い」と、声を大にして言う医師がいました。しかし、その声を本気にする人は、ほとんどいませんでした。

この30年間で、肺ガンで亡くなった人は200万人と言われます。近年では、年間、約7万6000人であることが統計で示されています。

日本人の喫煙傾向に変化が見られるようになったのは、ガンによる死亡者が4人に1人、3人に1人になったと言われた頃からです。喫煙する人は、2500万人とピーク時の半分近くになりました。

その傾向の理由は、ガン死亡率の高さだけではありませんが、喫煙者が半分になったことで、たばこ製造・販売する日本たばこ産業、たばこ販売で地方税収（市たばこ税）を見込む自治体を慌てさせました。

富士市にもたばこ販売による地方税収があります。金額は年間にして約19億円〜20億円であることは、習

慣的喫煙者が多いからです。

市民には「たばこについてもう一度考えてみませんか」と呼び掛けます。考えてみませんか、ということは、ただ考えるのではなく、習慣的喫煙を止めませんか、と問い掛けていることです。

習慣喫煙者が少なければ、市たばこ税は減ります。これは、市の財政を預かる部署の人にとって認めがたいことです。このような矛盾が、習慣的喫煙問題に絡んでいるのですが、そうしたことを知る市民は、あまりいいはずで

習慣的喫煙者が多い
理由が分かっている

富士市では、6年前に「市民意識調査結果」を市民に伝え、「たばこについてもう一度考えてみませんか」と呼び掛けています。この頃の習慣的喫煙者は、男性25%、女性9%でした。

ところが今は、男性35・2%、女性11%というように増加しています。喫煙率低下傾向の時代に逆行し、静岡県内の地域自治体では、最も高い習慣的喫煙率になっています。

原因について富士市は、2つのことを挙げます。

○身近な家族や同僚に喫煙者が多い環境で、たばこを吸い始める、たばこを吸い続けることへの心理的抵抗が低くなりがち。

○全国的な統計でも、デスクワーク中心の職種に比べて、製造業、運輸業などの現場職は、比較的喫煙率が高い傾向があり、数多くの大規模な製造拠点があつまる工業都市では、交代勤務制による不規則

富士市民の習慣的喫煙率

男性 35・2% 女性 11%

静岡県内ではナンバーワンを継続中



余計なお節介
をひと言。

親子2代にわたって習慣的喫煙をつづけているのは、いかなものでしょうね。

な生活、労働のストレス解消、工場内の喫煙文化という環境に富士市はある。

と。2つの習慣的喫煙の理由が、各地の工業都市でも見られる傾向だとしても、富士市としては自慢できることではありません。富士市の名誉のために、習慣的喫煙を止める人は、おそらくいないでしょう。

習慣的喫煙者は、喫煙の弊害も、肺ガンの危険性も、まったく知らないことではありません。その人たちに向かって、「喫煙を止めませんか」と言うのは、余計なお節介以外のなものでもありません。

富士市には、製造業、運送業が多く、仕事上でストレスを抱えている人が多いため、習慣的喫煙者が多いとすることは、理由のための理由です。では、ストレスが解消されると、習慣的喫煙は止められるのでしょうか。答えは、ノーです。

習慣的喫煙を止められないのは、意思が弱いという精神的なことではありません。自分はニコチン中毒に冒されていると思う人は、あまりい

ませんが、習慣的喫煙は、ニコチン中毒症状の現れです。

国民の健康を預かる政府が、中毒症状になる物を商品として販売許可を出しています。子どもたちに説明しようとしてもできないことです。明治維新後の日本政治と社会の動き、専売公社の歴史を紐解くことになり、相当の紙数を必要とすること、ここではできません。

その経緯を知ったことで、習慣的喫煙を止める人はいないことでしょう。正義感だけでは、ニコチン中毒症状を消すことができません。

喫煙防止活動の成果を出すには広告塔がいる

富士市は、習慣的喫煙者の割合を抑えるため、行政として取り組み続けています。それでも、逆に習慣的喫煙者が増えています。増加理由も検討され、対応に当たっていると思います。

第三者として思うことは、取り組みの継続性、行動の強弱、広告塔の不在、などがネックになっているよ

うに見えます。

ことに広告塔は、一つのポイントです。昔の話で恐縮ですが、奈良時代に仏教という外来思想が伝わって、日本を仏教国にするため、聖徳太子を担いで広告塔にしました。その手法は、芸能人を広告塔にして事業成績を伸ばそうとする現代に伝わっています。

富士市出身の有名な俳優さんか著名人をお願いし、「習慣的喫煙防止相談員」の冠を与え、大手製造会社、大手運送会社に出向いて、喫煙防止の話をしてもらいます。その際には、ニコチン中毒からの脱却方法も伝えます。

次に、10年後、20年後を見据えて小学校、中学校、高校に出向いてもらい、喫煙防止の話を楽しくしてもらうことにします。これは、意外と大切なことです。

喫煙防止活動には、当然ながら経費を要します。その必要金額も市民に伝え、できることから始め、反応を見て次のステップに進むことが最善です。